



国立大学リスクマネジメント情報

2016(平成28)年12月号

<http://www.janu-s.co.jp/>

特集テーマ

熊本地震と大学の対応

平成28年4月14日、そして4月16日、最大震度7を観測する地震が熊本県で連続して起こり、甚大な被害が発生しました。その後も長く余震が続き、また、豪雨災害も加わり、被災地での復旧には大変なご苦労があったとお察しいたします。

本号では、熊本大学での対応や九州地区を中心とした全国大学からの支援の概要について、熊本大学、九州大学のご協力により、ご紹介いたします。

1. 熊本地震の特徴

熊本地震は、阪神・淡路大震災と同じ活断層型の地震で、被害は熊本県と周辺地域に限定されますが、震度7を観測する地震が連続して起こり、また、規模の大きな余震が連続して長期に起こるといふ、観測史上例をみない地震といわれています。

2回の震度7の揺れ、そしてその後の大きな余震の連続により、建物に大きな被害が生じました。旧耐震基準で建てられて住宅の被害は甚大でしたが、新基準による住宅でも被害が発生しました。

鉄筋コンクリートの建物でも、倒壊、大破が発生し、耐震補強済みの建物でも被害が発生しています。

また、つり天井、窓ガラス、外壁等の非構造部材の落下が発生しており、地震の発生が深夜でなければ、人的被害が発生したと推測されます。



熊本大学工学部1号館(耐震補強済だが被害)



熊本大学附属小学校(教室天井崩落)

<近年の大地震の比較>

	熊本地震	東日本大震災	阪神・淡路大震災
発生日時	2016年4月14日 21:26 2016年4月16日 1:25	2011年3月11日 14:46	1995年1月17日 5:46
マグニチュード	前震 M6.5 本震 M7.3	M9.0	M7.3
最大震度	前震・本震 震度7	震度7	震度7
余震(震度5弱以上)	23回(7/2)	53回(地震後1年間)	0回
地震類型	活断層型	海溝型	活断層型
震源・深さ	熊本地方 11km	三陸沖 24km	淡路市 16km
被害範囲	熊本県、周辺県	東北地方、一部関東	兵庫県南部
津波被害	なし	甚大	なし
液状化面積	約1.8km ²	約4.2km ²	約1.0km ²
死者・行方不明者	161人(12/14)	約18,500人	約6,500人
住宅全壊	8,369棟	約12万棟	約10万棟



2. 熊本大学の初期対応

熊本大学では、地震発生直後から迅速な対応を進められましたが、発生から1か月が経過し、被害の全体像の把握が進み、授業も再開したことから、初期対応等の状況を整理されています。一部を転載させていただきます。

⇒ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/whatsnew/soumu/160513>

「平成28年熊本地震」における熊本大学の初期対応等について

平成28年5月13日 熊本大学

<地震発生直後の対応>

(1) 地震発生と災害対策本部設置

- ・前震を受け、危機管理担当である財務・施設担当理事をはじめ、参集可能な職員が大学に集まり被害等の状況を確認し、同理事から学長へ、病院も含めて確認できた被害状況を報告。
- ・翌朝、速やかに学長を本部長とする「災害対策本部」を設置し、被害に関する情報収集や初期対応等を開始。

(2) 初期対応等について

- ・第1回災害対策本部会議において、総務班、広報・情報収集班、被災者対策班等から編成される災害対策班を設置。
- ・各班所定の業務を行うとともに、学生（留学生を含む。以下同じ）、教職員の安否確認を最優先として、電話、メール、Web システム等を活用し、情報を収集。

(3) 部局との連携

- ・4月18日（月）に、各部局長が集まる連絡調整会議を臨時で開催し、本学の被害状況及び施設等被害の復旧に向けた今後1週間の短期的対応について情報共有。
- ・同会議における学長要請により、各部局において「平成28年熊本地震」における対策チームを設置し、復旧に必要な検討事項を洗い出し、今後の復旧工程表を作成することを依頼。
- ・現在は、各対策チームの検討状況に基づき、短期、中期、長期に復旧工程を整理し、災害対策本部において今後の対応を検討中。

<被害状況について>

(1) 人的被害

- ・前震及び本震発生後、前述の方法により、速やかに学生及び教職員の安否を確認。
- ・現在は、全ての学生及び教職員の確認が取れており、学生83名、教職員11名が軽傷を負ったとの状況を把握。
- ・学生については、「被災状況並びに通学見込み」等に関する調査を4月25日（月）から実施。

(2) 物的被害

- ・前震により、国指定重要文化財である五高記念館の煙突や屋根瓦の損傷落下等が発生。
- ・その他の建物にも壁のひび割れや剥落、水漏れ等の被害が発生。
- ・本震により、五高記念館に新たな損傷落下が発生したほか、同じく国指定重要文化財である化学実験場や工学部研究資料館においても、損傷落下や外壁のひび割れ等の被害が発生。
- ・これらの3棟は使用を中止し、周囲を立ち入り規制中。
- ・黒髪キャンパスの工学部1号館をはじめとして、各キャンパスの建物の壁にひび割れや剥落、天井ボードの落下、水漏れ等の被害が多数発生。
- ・これを受けて、本学施設担当職員と九州大学からの支援職員が建物の応急危険度判定を行い、新たに2棟を当面の間使用を中止。
- ・調査により、宇留毛団地法面にひび割れが判明したことにより、同地区の教職員宿舎及び



留学生等の宿舎である国際交流会館の一部の入居者の退去を指示。現在も、教職員宿舎及び国際交流会館の一部は立ち入り禁止。

- ・九州地区5大学（九州大学、佐賀大学、長崎大学、宮崎大学、鹿児島大学）からの支援も得て、建物内部の被災調査を実施。
- ・実験装置にも倒壊や落下等が多数あり、被害状況を調査中。
- ・薬品等を扱う全ての研究室等について調査を実施し、必要な応急対応処理を完了。

(3) ライフラインについて

- ・本震発生後は、電力は通常どおり供給されたが、上水道及び都市ガスが供給停止。
- ・上水道の供給停止期間中、一部のキャンパスにおいては学内の井戸水を供給し対応。
- ・現在、電力、上水道、都市ガスは全キャンパスで通常通り供給中。
- ・エレベーター・エスカレーターは、安全確認を行い順次稼働させているが、被害を受け修理が必要なものもある。

<避難所の開設について>

- ・前震発生直後から、一時避難所として、黒髪北キャンパス体育館及びグラウンド、大江体育館（薬学部）を開放。
- ・本震を受けて、上記に加えて黒髪北キャンパス全学教育棟、本荘体育館、附属小学校体育館及び附属中学校教室を開放し、最大で約2,800名の学生や地域住民を受け入れ。
- ・これらの避難所においては、本学職員のみならず、学生ボランティアも参画し、熊本市職員と連携を図りながら運営。また、留学生ボランティアも参画して、外国語による対応も実施。
- ・避難者の増加による本学の支援物資の激減を、九州大学及び長崎大学の速やかな支援により補うとともに、継続的な被災者支援のため、九州大学を窓口として、8大学（九州大学、佐賀大学、鹿児島大学、山口大学、九州工業大学、宮崎大学、山梨大学、奈良先端科学技術大学（受入順））から水、食糧、毛布等の支援を得た。

※ 熊本市の避難所集約化の方針により、5月8日（日）までに全ての学内避難所を閉鎖。

<医学部附属病院の状況について>

- ・職員、患者等に人的被害なし。
- ・建物間の渡り廊下に亀裂、外来診療棟及び中央診療棟の天井壁の落下、医療用エレベーターの故障等の物的被害あり。
- ・これらの物的被害は現在仮復旧により対応。この他、エスカレーターの復旧は5月下旬になる見通し。
- ・本震後、上水道及び都市ガスが供給停止となり、透析患者及び重症患者の手術等の水を確保するため、熊本県災害対策本部に対して自衛隊の給水を要請。給水車により、4月17日（日）から25日（月）まで毎日5トン～115トンの供給を受けた。4月25日（月）に上水道が復旧。
- ・他の病院において、重症患者の受け入れ体制が整わない状況を受けて、一時的に本学附属病院にて重症患者の受入を実施。その後、患者の症状等を勘案し、他県の国立大学附属病院等へ一部の患者を転院。現在は平常時の状態。
- ・医療スタッフ及び職員の飲料及び食糧が不足したため、3大学病院（九州大学、佐賀大学、宮崎大学（受入順））をはじめ、順次長崎大学、大分大学、鹿児島大学から支援を得た。
- ・4月18日（月）の外来診療を休止した他は、通常どおり診療を実施。

<学生に向けた対応について>

(1) 教育支援

- ・カレンダー・行事予定表の見直しを実施。
- ・5月6日（金）まで休講とし、9日（月）より授業を再開。
- ・履修登録期限も4月21日（水）から5月13日（金）に延期。
- ・附属学校等については、小学校及び中学校は5月9日（月）より授業を再開、幼稚園及び特別支援学校は同10日（火）より授業を再開。

(2) 学生支援

主に以下の事項について実施

- ・災害救助法適用の地域で被災した世帯の学生で、家計急変のため修学が困難となった学生に対する授業料免除（本申請5月9日（月）～20日（金））。
- ・平成28年度前期分授業料の口座振替日を一ヶ月延期。（4月28日（木）→5月27日（金））



- ・奨学金の申請受付期間や関係書類の提出期限等を一部延期。
- ・地震でメンタルヘルスの不調をきたしている学生の相談窓口を掲示及びHPで周知し、保健センター、学生支援室及び学生相談室で対応。
- ・企業の人事担当者向けに、被災地域の学生へ、説明会等日程や締切について特別の配慮を依頼する文面をHPに掲載するとともに、マスコミリリース等により、報道に働きかけ。
- ・入居希望の避難学生に対する学生寄宿舎空き室への受入体制を整備。
- ・工学部3年次編入学試験（推薦）の入学願書受付等を延長。
- ・「平成28年熊本地震」により被災した志願者の入学検定料免除の実施。（5月受付開始の工学部編入学入試を始め、全ての入試を対象に検定料免除を実施）
- ・4月29日（金）～5月8日（日）の連休期間中も、学生支援部の窓口を開室して対応。

(3) その他

- ・8月に開催を予定していた本年度のオープンキャンパス、サマープログラムの中止を決定。その他多くの事業を中止並びに中止を検討。

3. 周辺国立大学、国大協からの支援

阪神・淡路大震災、東日本大震災では、被災地にある国立大学も大きな被害を受け、全国からの支援が被災直後の緊急対応、その後の復旧・復興の大きな力となりました。そのような経験を踏まえ、国立大学協会（以下「国大協」）の各地域支部では、大規模災害が発生した際の連携・協力協定が締結されています。

九州支部（福岡教育大学、九州大学、九州工業大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、鹿屋体育大学、琉球大学）では、平成23年6月22日に「九州地区11国立大学法人間の大規模災害等発生時の連携・協力に関する協定書」を取り交わし、大規模災害等発生時の連携・協力の体制を整えていました。

熊本地震では、より機能的な支援の枠組みとして、「熊本大学支援連絡会（以下「支援連絡会」）が設置され、窓口を九州大学に一本化して九州、山口の国立大学が連携・協力する体制が整えられました。国大協も会員校に対し、支援連絡会を通しての支援を要請することにより、大学から協力の申し出があり、被災大学のニーズに沿った機動的、効果的な支援を行うことができました。

また、国大協は、日本経済団体連合会、他3団体に対し、被災した学生が就職活動で不利にならないよう最大限の配慮をしていただくよう要請文書を提出し、学生への影響の軽減に向けた活動を行ないました。

⇒ <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/approach/kumamotoquake/>

「熊本地震に関する支援の取組み状況」 平成28年9月12日 九州大学

1. 救援物資等の提供

項目	対応内容・対応状況																
1) 物的支援等	<p>○全学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常盤高等局長と久保総長の意を受けて、九州・山口の各大学等と連携協力した支援体制「熊本大学支援連絡会」を設置。九州大学が熊本大学のニーズを取りまとめ、計画的に救援物資を搬送。 ・文部科学省や国立大学協会の協力を得て全国74大学に拡大。 ・各国立大学に支援可能物資リストの作成を依頼し、九州大学において取りまとめ、熊本大学に提示。 <p>○病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本大学医学部附属病院からの要請に基づき、救援物資の搬送を実施。 ・国立大学附属病院長会議において、熊本大学医学部附属病院に対する支援窓口を九州大学病院に一本化することとなり、九大病院において支援可能物資の取りまとめを実施。 （熊本大学医学部附属病院建物内の水道水が、4月30日時点ですべて飲料水として利用可能になったことにより、支援物資提供については中断。） <p>○芸術工学研究院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/20被災地への支援物資（福岡市で受け付けている物品に限定）の受付及び防災勉強会を実施し、4/22に福岡市へ支援物資を提供。 ・学生有志により4/27に救援物資を大分県由布市に運搬。 <p><物資の支援状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期日</th> <th>支援先</th> <th>支援内容</th> <th>対応・協力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28.4.16</td> <td>熊大本部</td> <td>毛布 (200枚) エマージェンシーブランケット (1,000枚) 非常食 (2,570食) 非常食 (3,340食) 飲料水 (1,900ℓ)</td> <td>九州大学 九州大学生協 竹中工務店 長崎大学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>熊大病院</td> <td>毛布 (90枚) 等 飲料水 (4,650ℓ) 飲料水 (2,090ℓ)</td> <td>博運社 (トラック協会)</td> </tr> <tr> <td>H28.4.17</td> <td>熊大本部</td> <td>非常食 (1,510食) 飲料水 (1,500ℓ) エマージェンシーブランケット (1,000枚)</td> <td>九州大学 九州大学生協</td> </tr> </tbody> </table>	期日	支援先	支援内容	対応・協力	H28.4.16	熊大本部	毛布 (200枚) エマージェンシーブランケット (1,000枚) 非常食 (2,570食) 非常食 (3,340食) 飲料水 (1,900ℓ)	九州大学 九州大学生協 竹中工務店 長崎大学		熊大病院	毛布 (90枚) 等 飲料水 (4,650ℓ) 飲料水 (2,090ℓ)	博運社 (トラック協会)	H28.4.17	熊大本部	非常食 (1,510食) 飲料水 (1,500ℓ) エマージェンシーブランケット (1,000枚)	九州大学 九州大学生協
期日	支援先	支援内容	対応・協力														
H28.4.16	熊大本部	毛布 (200枚) エマージェンシーブランケット (1,000枚) 非常食 (2,570食) 非常食 (3,340食) 飲料水 (1,900ℓ)	九州大学 九州大学生協 竹中工務店 長崎大学														
	熊大病院	毛布 (90枚) 等 飲料水 (4,650ℓ) 飲料水 (2,090ℓ)	博運社 (トラック協会)														
H28.4.17	熊大本部	非常食 (1,510食) 飲料水 (1,500ℓ) エマージェンシーブランケット (1,000枚)	九州大学 九州大学生協														



H28.4.18	熊大病院	非常食 (1,200 食+軽食 1,800 食) 患者用非常食 (4,260 食) 職員用非常食 (600 食) 患者用非常食 (1,800 食) 飲料水 (450 本) 飲料水 (960ℓ) 患者用非常食 (510 食+軽食 528 食) 飲料水 (600ℓ)	九州大学 佐賀大学 久留米大学
H28.4.19	熊大本部 熊大病院	全身清拭タオル等 (10,000 人分) 非常食 (2,200 食) + 紙コップ (2,200 個) 飲料水 (4,200ℓ) 飲料水 (1,200ℓ) + 軽食 960 食 非常食 (1,710 食) + 紙食器 (6,000 人分) 飲料水 (3,600ℓ) 非常食 (1,500 食)、飲料水 (490ℓ)	九州大学 宮崎大学 九州工業大学 鹿児島大学 山口大学 佐賀大学 長崎大学
H28.4.20	熊大本部	非常食 (7,520 食)、飲料水 (2,800ℓ)	山梨大学
H28.4.21	熊大病院	患者用非常食 (7,050 食) 職員用非常食 (2,200 食) 飲料水 (7,608ℓ)	宮崎大学
H28.4.22	熊大病院	経口補水液 (480 本) 患者用非常食 (2,000 食)	九州大学 福岡大学
H28.4.23	熊大病院	患者用非常食 (3,500 食) 飲料水 (240ℓ)	九州大学 鹿児島大学
H28.4.26	熊大病院	患者用非常食 (146 食)、飲料水 (3,000ℓ)	大分大学

※上記のほか、東北大学、福島大学、茨城大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、名古屋工業大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の計 10 大学より、食料品や飲料水の支援をいただき、今後の万が一の事態に備え九州大学、佐賀大学、長崎大学に備蓄。

4. 避難所の運営と学生の力

熊本大学では、3頁「避難所の開設について」にも掲載したとおり、最大約2,800名の学生や地域住民を大学施設に受け入れましたが、避難所の運営では、総合大学の利点が発揮されました。学生ボランティアが自主的にかかわり、教員や学生のそれぞれの専門分野を活かした支援が行われました。大学の防災物資のストック、大学生協からの迅速な支援、前項で紹介した他の国立大学等からの継続的支援も大きな役割を果たしました。

熊本大学での避難所運営を担った学生たちは、その後、地震発生の日から名前をとった学生グループ「416」を結成、その経験をまとめた記録集の来春発行を目指し、作業を進めています。タイムラインでの対応記録、工夫して作った様々なグッズも収録される予定で、大規模地震等災害発生時、大学は避難者の受け入れ場所となることが想定され、参考になる記録と期待されます。

熊本地震では、熊本市の中心部にある熊本学園大学が災害弱者に配慮した避難所の運営を行ったことが報道されています。社会福祉学部を有する同大では、バリアフリー施設、専門部署だけでなく教員や学生を巻き込んだ障害者への日常的なコミュニケーションを活かし、地震発生直後から障害者を含む避難者の受け入れを行いました。福祉避難所として障害者だけに対応するのではなく、一般の避難者の中で合理的な配慮として様々な支援を整えました。ここでも、学生ボランティアが大きな力を発揮しました。



(WEBマガジン「KUMADAI NOW」熊本地震、避難所運営は熊大生 他 熊本大学ご提供の写真)



<Web上のニュースから検索>

<大学の管理・経営>

- 11. 1 非常勤講師の賃金が専任教員より低いのは違法だとして、○大学の非常勤講師が大学を運営する学校法人を相手取り約3千万円の損害賠償を求める訴を提起。
- 11. 29 ○大学から懲戒解雇された元准教授が処分取り消しを求めた訴訟で和解が成立。大学側が懲戒解雇処分を取消し、60日間の出勤停止に変更することなどで合意。

<事件・事故>

- 11. 7 イベントに出展したジャングルジム形の展示作品が燃え、児童が死亡、2人がけがをした火災で、作品を制作した学生が在学する○大学の学長が、記者会見で謝罪。制作段階で複数教員が指導、大学として出展許可補助金を支給。
- 11. 8 ○大学病院は、患者に行った肺がん手術で大静脈を傷つけ出血性ショックなどで死亡させる医療ミスがあり、3500万円の損害賠償金を支払うことで和解が成立したと発表。
- 11. 10 ○大学病院で乗用車が玄関付近にあるバス停に突っ込み建物に衝突。近くにいた3人が巻き込まれ、うちベンチに座っていた1人が死亡。
- 11. 21 ○大学の学生が「国際協力の実情を知るため発展途上国を中心に世界を回りたい」と休学して、コロンビアに滞在中に銃で撃たれて殺害。
- 11. 22 ○大学病院は、高度救命救急センターに入院中の患者12人から抗菌薬に耐性のあるカルバペネム耐性腸内細菌(GRE)が検出され、成人3人が感染し、うち1人が死亡したと発表。
- 11. 23 ○大学病院で筋弛緩剤の瓶(50ミリグラム)5本が紛失。
- 11. 23 ○大学病院で、先月20日に点滴3つ、今月20日にも点滴1つに穴が開けられていたと発表。
- 11. 24 ○大学病院は、9人分の致死量に当たる筋弛緩剤3本が紛失したと発表。
- 11. 29 ○大学のワングル部の学生6人のパーティーのうち3人が雪崩に巻き込まれ1人が心肺停止(のち死亡)。

<入試等ミス>

- 11. 19 ○大学は、和歌山県南部で起きた地震で「受験生が動揺した」として推薦入試の外国語の試験時間を1分間延長したが、2教室だけ伝達が届かず、別科目の試験後に解答用紙を配り1分間だけの再試験を実施。
- 11. 24 ○大学は、2月に実施した一般入試の選択肢の設問で正解になる選択肢が複数あるなど計4問の出題ミスがあったと発表。得点調整の結果、複数の受験生が追加合格。

<情報セキュリティ>

- 11. 12 ○大学の研究センターがサイバー攻撃を受けていた問題で、攻撃のきっかけとなったウイルス入り電子メールが他の大学にも届いていたことが判明。
- 11. 14 ○大学は、通信教育部の学生98人分の氏名や住所、電話番号が記載された名簿を宅配便による配送の途中で紛失したと発表。
- 11. 21 日本国内のウェブサイトでトップ画面が書き換えられるなどの改ざん被害が急増。16日までの1ヶ月半で大学や企業や新聞社などのサイト約180件が被害。
- 11. 28 防衛大、防衛医大が参加する学術系ネットワークを経由して陸上自衛隊のシステムにサイバー攻撃があったと報道。

<ハラスメント>

- 11. 29 ○大学付属高校で、生徒1人が複数の生徒からいじめを受けて手首を骨折するなどの「重大事態」があったにもかかわらず文科省への報告の遅れなど対応が不適切だったとして、当時の校長ら4人を戒告処分。

<学生・教職員の不祥事>

- 11. 16 ○大学の教授が、建設会社との共同研究で会社側に便宜を図った見返りに現金およそ200万円の賄賂を受け取ったとして、収賄の疑いで逮捕。
- 11. 22 女性に集団で性的暴行をしたとして○大学の学生3人を逮捕。同大医学部は、謝罪会見を行うとともに学内に調査委員会を設置したと発表。12月5日、同大病院研修医も準強姦わいせつの疑いで逮捕。
- 11. 29 ○大学の運営費など約1億1200万円を着服したとして、財務担当課長が業務上横領容疑で逮捕。
- 11. 30 ○大学の教授が、「阪神が優勝したら無条件で単位をくれるらしい」と虚偽の内容をツイッターに投稿した学生に200万円の損害賠償を求めた訴訟で、地裁は名誉毀損を認め30万円の支払を命じる判決。

配信について

本誌は、各国立大学・大学共同利用機関の国大協保険ご担当者、国大協連絡登録先、ご登録いただいた方にメールで配信させていただきます。 (無料) 配信登録、解除は弊社ホームページからお願いします。 ⇒ <http://www.janu-s.co.jp/>

情報提供のお願い

各大学等でのリスクマネジメントに関する取組み、事故・事件への対応のご経験、ご感想、ご要望等をお寄せください。
⇒ info@janu-s.co.jp

バックナンバー

- 16. 11月 外国人留学生の新たな保険
 - 16. 10月 停電によるリスクと保険
 - 16. 9月 麻しんの感染拡大
 - 16. 8月 損害賠償額と訴訟費用
 - 16. 7月 オープンキャンパスの事故
 - 16. 6月 台風、豪雨へのタイムライン対応
 - 16. 5月 海外留学保険の改訂、テロ等と保険
 - 16. 4月 震災被害、支援、調査と保険
- ※弊社ホームページからダウンロードできます。

発行 有限会社 国大協サービス
東京都千代田区神田錦町3-23

協力 株式会社インターリスク総研
三井住友海上火災保険株式会社